

# ティーチング・ポートフォリオ(教育業績ファイル)

|                            |                                                                                                                                                                                           |
|----------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 教員氏名                       | 彦坂 眞一郎                                                                                                                                                                                    |
| 主な担当科目                     | 合奏Ⅰ①/Ⅲ①_Sx(月曜3限),合奏Ⅰ①/Ⅲ①_Sx(水曜3限),室内楽Ⅰ/Ⅰ①②/Ⅱ/Ⅱ①②/ⅢⅣⅤⅥ/室内楽演習ⅠⅡ_サクソフォンA(水曜5限),<br>室内楽Ⅰ/Ⅰ①②/Ⅱ/Ⅱ①②/ⅢⅣⅤⅥ/室内楽演習ⅠⅡ_サクソフォンC(木曜2限),器楽                                                              |
| 2024年の<br>教育目標・授業に<br>臨む姿勢 | 演奏を成し遂げるために必要なことの第一は、考えることではなく、瞬間ごとにするべき行為を集中力を持って行うことである。そのためレッスンや授業では、奏法の各要素を具体的に認識することに重点を置いた。また、能力の低い学生の問題点の在り処を探り、暗譜型から初見型への感覚の変換を多く試みた。また、それらの学生の多くにビート感に不在があるため、改善を試みた。            |
| 2024年の教育に関する<br>自己評価       | 本年は学生達が音程を正確に認識、表現できるよう指導に力をいれたため、昨年以上に良い音程で演奏する学生が増えたように思う。このことは他の学生達へも影響しているため、年を追うごとに本学のサクソフォンの音程が洗練されてきていると感じる。また本年は、能力の低い学生の多くにビート感の不在が確認できたため、身体でビートを感じ続ける訓練をしたところ、明らかな効果を得ることができた。 |
| 2024年のFD活動に<br>関する自己評価     | FD研修会等では、毎回多くのことを学ぶ機会が得られ、特に直接的に自分の教育に関するこの場合は大変有意義な時間だと感じている。具体的には、学生との精神的な関係性に関することや多様性に関する事など、自身の日頃の指導の様子を俯瞰し、正すことがないかを考える良いタイミングになっている。                                               |
| 授業改善のために<br>取り入れた研修内容      | 9月10日に行われた合同研修会での二俣学部長のお話「教職員と学生がハッピーに学び合うためのコミュニケーションの技術」を拝聴した。二俣先生の学生への接し方の様子の一端を知ることができ大いに刺激を受けたとともに、やはり教育に大切なのは学生一人ひとりに向き合う心なのだと、私自身も実践するように心がけている。                                   |

## 2024 年度(後期)「学生による授業アンケート」結果に対する授業改善計画書

教員コード:572 教員名:彦坂眞一郎

### 1)アンケート結果に対する所見

私の授業の内容は実技系で、基本的に知識を学ばせる座学系授業とは違う。実技系授業では、待機説法のようにその時々に必要な技術や知識を学生たちに学ばせる必要がある。そこでは、各々の学生にとって何が必要なことなのかを見抜くことが必須だが、概ねうまく行っているようだ。演奏家が習得すべき技術と認識の数は膨大だが、様々なレベルの学生を指導する方法は、これがベストだと思う。

ごく少数だが、授業時間や回数に疑問を持った学生がいると認識した。

### 2)要望への対応・改善方策

主科実技、器楽に関してのレッスン回数や時間に関する疑問は、私としては自覚がない。おそらく何かの勘違いであると思うが、十分注意したい。

合奏の授業は、担当教員の中に早めに授業を切り上げる傾向のある教員がいるようなので、注意を促すこととする。

### 3)今後の課題

授業内容、その方針についてはこれまで通りで良いと思うが、より一層学生一人一人に寄り添った指導を心がける。

授業回数、時間に関して不足がないように注意する。

以 上